源頼朝の挙兵と千葉介常胤

平治の乱に敗れ、伊豆国（今の静岡県）の蛭ケ小島に流されていた源頼朝（源義朝の子）は、1180年（治承4年）平家方の山木兼隆を討つことに成功しましたが、相模国（今の神奈川県）の石橋山の戦いに敗れて房総に逃れました。安房国（今の千葉県南部）の猟島（千葉県鋸南町）に着いた頼朝は、千葉介常胤と上総介広常に参加を命じました。

常胤は、ただちに頼朝に対して参上を知らせました。常胤がいち早く参加を決意した理由には、次のようなことが考えられます。

①常胤は、源頼朝の父義朝とは主従の関係があった。

②平治の乱以降、相馬御厨の支配権を平家方の佐竹氏に奪われるなど平家から強い圧迫があった。

③常胤の六男胤頼は、頼朝とは挙兵以前から関係があり、また、七男の日胤は頼朝の祈祷僧であった。

源 頼朝坐像　東京国立博物館蔵

石橋山古戦場　小田原市

源頼朝と大庭景親が戦った古戦場。敗れた頼朝は、舟で安房に逃れた。（写真提供：小田原市）

蛭が小島　静岡県伊豆の国市

源頼朝は、平治の乱の後、治承4年（1180）の挙兵までここに流されていた。（写真提供：伊豆の国市）

千葉介常胤
『下総国千葉郷妙見寺大縁起絵巻』より　歓喜寺蔵
非公開

頼朝上陸の地　千葉県鋸南町

石橋山の戦いに敗れた頼朝は、安房国猟島（鋸南町龍島）に上陸した。